

## 広報たのみ診療所

2023年度秋のコロナワクチン接種にご協力を

わかやま たかし  
朝日診療所 所長 若山 隆



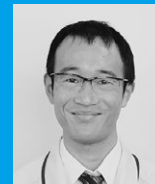
2023年夏は只見でもコロナウイルス感染者がたくさんでましたね。現在流行しているコロナウイルスは変異により感染力が増えていますので、周囲にコロナの人はいなかったのにいつの間にか感染していたというケースが増えています。そして厄介なところは、感染が判明すると、発症した日を0日目として、5日間は隔離が必要になることです。子供は保育園・学校に行けなくなるし、社会人は仕事に行けなくなります。そして高齢者は、公的な介護サービスを受けるのに制限がかかります！高齢者の中には、介護サービス（ヘルパーさんやデイサービス・ショートステイなど）を利用してなんとか生活を維持している方がいらっしゃいます。このような方がコロナに感染すると、高熱や風邪症状でつらくて動けないのに、さらに介護サービスも思うように受けられず、生活が破綻して問題になるケースが増えています。コロナ自体は重症化しにくくなったのですが、高齢者にとっては相変わらず死活問題となります。この夏のコロナ流行の際も、会津若松の病院のコロナ病床が満床になって大変でした。

コロナワクチンはもう受けたくないという方も増えていると思います。発熱などの副作用が辛い、ワクチンうけても感染してしまった、どうせ半年もすれば効果が落ちる、何回もワクチンを受けるのは嫌だ、などなど…。無理ありません。ですが、この秋のコロナワクチンはこれまでと異なる最新のワクチンで、効果も高くなっています。町全体でコロナワクチンを接種する人が増えれば、町全体でコロナが流行しにくくなります。若い方はワクチンを受けなくても平気かもしれませんが、あなたから周囲に感染し、その果てに高齢者に届いてしまうこともあるのです。今一度、コロナワクチン接種にご協力ください。

## 地域おこし協力隊として Vol.106

世界の生物圏保存地域（ユネスコエコパーク）

只見ユネスコエコパーク推進協力隊 こんどう ゆう た  
近藤 友太



今年6月に開催されたユネスコの会議にて生物圏保存地域（ユネスコエコパーク）に新たに11地域が登録されました。新たに登録されたのはカメルーン、中央アフリカ共和国、コロンビア、ドイツ、インドネシア、ケニア・ウガンダ、モンゴル、パキスタン（2地域）、ペルー、タンザニアの地域です。ドイツの新規登録地、ドレーミングでは広範な湿原の利用と保全による農業発展への取組みが過去200年以上にわたり行われ、延べ1,725kmの運河・水路や数百もの貯水池などの連続した水域はカワウソやビーバー、コウノトリなどの貴重な住処となっており、エリア内でのエコツーリズムや環境教育の推進による生態系のさらなる復元や固有の文化社会の再興が計画されているとのことです。

今回の登録によって世界の生物圏保存地域は延べ134ヶ国・748地域となりました。

地域別に見るとアフリカ33ヶ国93地域、アラブ諸国14ヶ国36地域、アジア太平洋地域24ヶ国176地域、欧州・北米41ヶ国309地域、ラテンアメリカ・カリブ海諸国22ヶ国134地域となっており、国別ではスペインが53地域で最多、次いでロシア（48地域）、メキシコ（41地域）と続いています。

日本では現在10地域が登録をされています。国内のユネスコエコパークは連携組織である日本ユネスコエコパークネットワーク（JBRN）にて事例や課題の情報交換などの連携を図っています。また同時に東南アジア生物圏保存地域ネットワーク（SeaBRnet）、東アジア生物圏保存地域ネットワーク（EABRN）にて海外へのつながりも確保されています。

生物圏保存地域（ユネスコエコパーク）の取組みは登録地域間の情報共有により、より高度な活動を推し進めていくことが念頭にあります。国内での連携・情報交換を主体に、よりよい活動に向け連携を活用していければと思います。